

現代中国における伝統主義と権威構造

—毛沢東は如何に“出題”されるか—

Traditionalism and the Structure of Authority in Modern China : How was Mao Ze-dong fragmented?

鏡屋 一

(Abumiya Hajime)

Abstract :

On December 26 1993, the hundredth anniversary of his birth, Mao Ze-dong was made the subject of a quiz competition held at Beijing Normal University. The mere fact that Mao was treated in this way made it clear that his status was no longer that of a sacred and inviolable being. After the June 4th Tiananmen Square incident in 1989, a structural change in the nature of authority was brought about by the growth of traditionalism, which made a fetish of the Revolution of Modern China and acted as a restraint on the reformist policies led by Deng Xiao-ping. However, it was paradoxically the Mao boom, fanned by the traditionalists, which strengthened the 'routinization of Mao's charisma'. Specifically, as can be seen from the example of the quiz competition, Mao was fragmented into small pieces. It was this fragmentation of Mao's authority that the reformists used to attack and overcome the traditionalists from the spring of 1992. And the final result of this was that the figure of Mao was compartmentalized into the history of the Chinese Communist Party.

キーワード：現代中国、伝統主義、権威構造、毛沢東、中国共産党

Key Word : Modern China, Traditionalism, Structure of Authority, Mao Ze-dong, Chinese Communist Party

はじめに

長らく中華民国（台湾）においては、「国父」孫文の思想的精華である『三民主義』が大学の入試科目として「出題」されていた。「民族主義」「民権主義」「民生主義」の3理論にとどまらず、「中華民族」の受難の過去と民族の復興にいたる「歴史」の内容をも問うこのカテキズムは、受験者をして現政権の正統性を「学習」せしむるものであった。

1989年の六四事件以後、政治的保守化の進んだ中華人民共和国において、革命主義的な「伝

統」が強化される一方、「改革開放」政策は後退した。1991年7月、建党70周年を迎えた中国共産党（以下、中共）は、『毛沢東選集』第1巻から第4巻の修訂第2版を出版し、長い将来に渡り思想理論教育の基本教材であると『毛選』の学習を指令した。その後の半年間で「常備必読」の『毛選』は全国で一千万部以上が販売された^①。

このような状況下において、1993年12月、毛沢東が「出題」された。むろん大学の入試科目としてではなく、毛沢東生誕百周年の記念行事

の一環としてであった。神聖な「権威」の源泉である「偉大な領袖」が「出題」されること自体、本来密教的であるべき「権威」の顕教化を意味している。「出題」は、「毛沢東」を取り巻く政治的環境の変化が、不可視なものを顕在化させ、不可触なものを操作可能にした結果であるとみるべきであろう。これが本稿の基本的な視角であり、この操作可能な「毛沢東」という切断面から、現代中国の権威構造の一面を観察することが本稿の目的である。操作可能となった「毛沢東」のひとつが、毛沢東クイズ大会である。

I. 毛沢東同志生誕百周年に関するクイズ

A. 作成者と実施状況

毛沢東の生誕百周年である1993年12月26日、中共および中国政府は大々的に記念行事を開催し、同時に、各職場・学校でも、同様の記念行事が開催された。

北京師範大学では、記念行事の一環として、毛沢東同志生誕百周年に関するクイズ大会が実施された²⁾。本稿が先ず関心を寄せるのはこのクイズ大会における設問である。

(1) 問題は全部で130題が出題された。おそらくは短時日での拙速の編集が原因であろう、74番が欠番となっている。このクイズ大会は参加者の成績如何を争うのではなく、学習を目的としてより多くの青年たちに、毛沢東という「偉人」の一生を理解してもらおうという教育的宣伝であった。

(2) 問題作成者は、北京師範大学共産主義青年団（以下、共青团）である。共青团委員会が学識者・研究者を招聘し、毛沢東の生い立ち、毛沢東の青年時代、毛沢東の革命事跡、毛沢東思想の哲学的基礎などを報告してもらい、それらの原稿をもとに「团委宣传部」の委員が試験問題を作成した。

(3) 参加者は、共青团員とその他の多数の在学学生、教職員であった。北京師範大学の在学学生の50%以上は共青团員なので、当時全学の学生数から推測して約4千人以上はこれに参加したと推測される。大学の学部生・院生・職員・附

属機関の青年はほとんど参加したようである。共青团支部・小組を1単位として答案を作成することが求められていたからである。

(4) 実施状況は、厳粛というほどではなかったが、いたって真面目な雰囲気で行なわれた。共青团支部・小組のグループ毎に解答が求められ、集団で調査し相談しあって解答した。このクイズ大会の目的が、毛沢東の業績を理解するという教育宣伝でもあったことから、ノートや資料の閲覧が認められ、それゆえほとんどの解答が正解であった。成績優秀者は表彰されたが物質的な賞品はなかった。結果は北京師範大学の『師大周報』に公表されたということである。

B. 出題内容

130題の問題は、その内容にしたがって、次のいくつかに分類することができる。130もの設問を行論中に掲げるのは、議論の形としては繁雑であるため、本稿の末尾にまとめてある。毛沢東に関する「出題」が、はたしてどのような様相であったか、「出題」という操作の実態はどうであったか、適宜参照を求めたい。

(1) 毛沢東個人の履歴に関するもの：32問

出題の約4分の1は、毛沢東個人の履歴に関するものである。そのほとんどが中華人民共和国建国以前に関わるものである。枝葉末節に関わる問題も多いが、毛の伝記を参照すれば解答可能である。1981年の「歴史決議」において、政策上の「誤り」とされた「大躍進」と「文化大革命」については全く触れられていない。ここに現代中国の自己記憶の輪郭が窺える。

(2) 毛沢東の著作に関するもの：14問

毛沢東の青年時代の論文については毛沢東の伝記類を、1920年代～1940年代の著作については『毛沢東選集』を熟読する必要があるだろう。華国鋒政権の産物である『毛沢東選集』第5巻については触れられず、江沢民時代の成果である『毛沢東選集』第2版について出題されている。各時期の毛沢東の著作に関する問題は、概して単純な知識が問われているにすぎないが、学生たちの日頃の「政治学習」の質を反映したものであろう。

(3) 「毛沢東思想」に関するもの：2問

問題(68)の「毛沢東思想」という概念を最初に提起したのは誰か、に答えるには毛沢東思想に関する精査と博搜が要求されている。張如心について知る者は多くはない。「毛沢東思想」は1945年に指導思想として党規約に盛り込まれたが、問題(69)毛沢東思想の真髄は何か、は現在の中国の顕教である「歴史決議」での規定に従わなければならない。将来の優秀な党員候補としては容易に通過することが求められる関門である。この問題(69)は、後に示す「歴史決議」に関する問題であると分類することもできる。

(4) 毛沢東の詩詞に関するもの：16問

16問という出題数は、出題全体のバランスからみて異常に多いといわなければならない。問題作成者にとって出題する意味があると考えられたものとみられるが、それについては後述する。

一瞥してわかるように出題はほぼ詩詞作成の時系列順ではあるが、完璧ではない。出題意図も詩詞の文学的な内容に関するものではなく、詩詞に関する客観的な外在的な知識を問うものがほとんどである。作問者たちも、毛沢東の詩詞の解釈にまで立ち入る意思はないものとみえる。とはいえ、これらの問いに答えるには、毛沢東の詩詞を熟読しておく必要がある。後述するように、大学生たちが毛沢東の詩詞を日常的に愛読していた、という背景にもとづいて出題されているとみるべきであろう。

(5) 中国革命史および共産党史に関するもの：34問

毛沢東の生涯は、中国革命史および共産党史に直接間接に関連を有するので、この分野からの出題が34問、すなわち、全体の4分の1以上を占めるのは当然であると思われるが、しかし、問題のうち半数以上の18問は、毛沢東死後の鄧小平時代に関するものである。

中国革命史に関する単純な知識を問うものが多数を占める。意外なことに、国共分裂時期に関する問題として長征が出題されていない。

共産党史の重要な政治運動のいくつか、特に「左傾」の頂点に位置する「文化大革命」はま

ったく触れられていない。毛沢東の履歴に関する出題と同様に、すでに「禁区」に属するため「問題」とはならない、ということであろうか。

出題を概観して気付くのは、特に鄧小平時代の法制度に関する内容が多いということである。「共同綱領」や「婚姻法」を問う(42)(43)と、最初の中華人民共和国憲法を問う(48)など、国家の法的構造に関わる出題が多いのは、近年の共産党史記述の特徴であり、このクイズの特徴でもある。

ところで、問題(124)の「民法」の出題の適否は問わないとしても、問題(125)(126)(127)の「専利法(特許法)」「著作権法」「全民所有制工業企業の経営転換メカニズム条例」に関する出題は、解答する大学生にとってはかなり難度の高い問題である。しかしながら、いわゆる国有企業の「経営転換メカニズム条例」(1992年6月30日国務院通過)は、国有企業の市場経済化への適応を促進するものであり、いわば鄧小平・江沢民路線の象徴である「社会主義市場経済」の根幹に関わる重要性をもっていることを勘案すれば、将来の国家の継承者である大学生たちには、国家の法制度化の一環として必要不可欠な知識であり、出題者が大学生たちにこの点に敏感であることを期待した出題であるといえることができる。逆にこの出題を通じて、この「条例」の重要性が再確認できよう。

問題(44)(45)で問われる「三反」とは、汚職、浪費、官僚主義に対する反対であるが、この政治運動の結果、1951年11月に大規模な汚職が摘発され、劉青山と張子善が逮捕された。それぞれ河北省天津地区党委員会の前書記と現書記であった。翌年2月に死刑判決が下った。量刑の重さに反対意見もあったが、影響力の大きな幹部の処罰であるからこそ厳しい判決であるべきであり、この2人を処罰してこそ、2百人、2千人、2万人の様々な誤りを犯した幹部を「救済」することができるのだ、というのが毛沢東の見解であった。また、贈賄、脱税、国家資材の窃取、手抜きと材料の誤魔化し、国家の経済情報の窃取の5つに反対する「五反」運動についても問題(46)で出題されている。

六四事件に際し学生たちの要求に党官僚の汚

職摘発があったように、1980年代後半の政治的腐敗・汚職の増大悪化を考えれば、問題(45)(46)の「三反」「五反」に関する出題、および(116)の規律検査委員会に関する出題は、青年学生の社会的関心に沿った、その出題意図が推測できる。

(6) 「歴史決議」に関するもの：5問

毛沢東に対する現体制の評価は、1981年の「建国以来の党の若干の歴史的問題に関する決議」(略称「歴史決議」)に規定されている。毛沢東思想は党の指導原理であることはわかりないが、毛沢東思想という体系は共産党の共有財産であることが強調されることにより、毛沢東本人とは切り離されることになった。

過去の共産党の各時期における「左傾の誤り」を数えあげ、建国後の毛沢東の指導の誤りを明記し、「文化大革命」を全面的に否定する「歴史決議」は、急進主義の「伝統」を抑え込み、鄧小平時代の「改革開放」政策の正統性を弁証する役割を果たした。しかしそれは毛沢東や党の歴史について、誰もが自由に発言を許される環境が用意された、というものでは決してなかった。逆に、党の公式見解である「歴史決議」によって、それ以後、毛沢東や「文革」に関して自由な議論は封じられることになった。この毛沢東クイズ大会における毛沢東の経歴や著作や思想の解釈に関する「出題」もまた「歴史決議」の規定に忠実に従ったものである。

(7) 鄧小平に関するもの：10問

10題という問題数を多いと見るか否かは難しいところであるが、毛沢東に対する現体制の評価は「歴史決議」で規定されており、そして「歴史決議」を作成した現体制の中核が鄧小平であることを想起すれば、毛沢東生誕記念のクイズ大会で鄧小平に関する「出題」が行われることは不思議ではない。むしろこのクイズ大会の隠された真の目的に関わっていると考えるべきである。

クイズ大会では、鄧小平の復活、歴史決議の思想的核、鄧小平理論が問われている。問題(79)では、鄧小平理論を構成する9つの側面について解答を求めている。中共第14回大会での政治報告を熟読しておかなければ答えられな

い問題である。この政治報告を行なったのが江沢民であることを考慮すれば、ここで鄧小平について言及することは、江沢民の存在を前提にする、ということの意味している。

共産党史に関する問題として分類した問題(130)は、江沢民が中共第14回大会の報告で提起した、14年間の偉大な実践の経験が集中した一点とは何か、と問い、続く問題(131)では、中共第14回大会が提起したわが国の経済体制改革の目標とは何か、と訊ねている。鄧小平理論を「指導的な党の基本路線」とし、「社会主義市場経済体制を樹立」することを答えさせる問題である。このクイズ大会自体が江沢民時代の産物であり、この大会開催の狙いがどこにあったのかが窺える設問である。

教育面に関する鄧小平の貢献についての「出題」は、教員養成を使命とする北京師範大学の共青团としては自然なことであろう。

(8) 毛沢東・鄧小平以外の指導者に関するもの：4問

このような形で、劉少奇、周恩来、朱徳について、しかも『選集』の巻数について出題する意図がよくわからない。この人選は、後述する毛主席紀念堂内部の配置に関係しているようにも思われる。

(9) 「中国教育改革と発展綱要」に関するもの：7問

この「綱要」は問題(85)にあるように、中共中央、国務院が1993年2月13日に印刷配布したもので、6大部分、50条から構成されている。大部なものであって、たとえば、郭齊家主編『中華人民共和国教育法全書』(北京広播学院出版社、1995年4月)に収録されているものは、56頁から66頁まで、約1万6千字ある。問題の内容も詳細に及び、「綱要」を繰り返し読まなければ解答はかなわない。しかもこれについて7問設けていることは、全体の構成からみても、多いと言わざるをえない。北京師範大学が教育系の大学であるという自負にもとづく出題であると考えられる。

(10) 北京師範大学(と毛沢東)に関するもの：6問

この6問に答えるには、北京師範大学学校史

を繕かなければならない。即答できる解答者は多くはないと確信する。上でみた「中国教育改革と発展綱要」に関する問題と同様に、大学の独自性を意識した問題であると思われる。1950年代からの出題に限定されるのは理解できない。このクイズ大会での出題が、よく練り上げられたものであることを疑わせる側面でもある。

Ⅱ. 毛沢東クイズの背景

A. 大学生の毛沢東ブーム

1992年のことである。中国の大学生の間で、毛沢東の「探究」、毛沢東の「発見」が異常な関心呼び、当時「毛沢東熱」（毛沢東ブーム）と注目された。

中国人民大学の図書館では、『走下神壇的毛沢東』、『領袖泪』、『毛沢東伝』をはじめとする毛沢東関係の図書の閲覧率が上がり、江西大学では、『矛盾論』、『実践論』、『毛沢東思想研究』などは常時貸し出し状態で、湖南財経学院では、以前人気のあった西洋哲学の本は「馬恩列斯毛」（マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン、毛沢東）の著作に代わったと伝えられる⁽³⁾。

大学生のこの毛沢東「探究」熱は次の三段階を踏むという。

第1に、毛沢東の伝記に関心をもち、『毛沢東伝』、『毛沢東和他の分岐者』、『走下神壇的毛沢東』、『巨人的誕生』、『領袖泪』、『毛沢東家世』など読みやすい書物を読みふける。また、毛の写真を貼る、毛のバッジをつける、毛の映画を鑑賞するなど含まれる。

第2に、毛沢東の著作を系統的に読むようになる。多くの大学では『毛沢東選集』はみな借りだされることになる。毛沢東の詩詞でさえ例外ではない。

そして第3に、学内に「毛沢東研究小組」あるいは、「マルクス・レーニン主義小組」といった研究サークルをつくり、全面的に毛沢東の研究をはじめ⁽⁴⁾。南京大学では2千名の学生が「青年共産主義学校」に参加し「業余党校」を創設したという。また陝西省では大学生が作

った学習サークルは1100余りにのぼり、全省の大学生の4分の1が参加した勘定になるといわれる⁽⁵⁾。

大学生が毛沢東時代を引照して現実を揶揄するという風潮は、すでに1989年の天安門にて行われていた。それは「領袖」毛沢東の名を借りて体制への不満をあてこする、というやり方であった⁽⁶⁾。

六四事件以後の保守派の台頭と政治思想教育の圧力が厳しさをます一方で、大学生活は空虚なものになっていく。教授たちの講義内容は事前に大学の党委員会の検閲と承認を受け、教室ではそれを棒読みするだけだといわれる⁽⁷⁾。こういった現実由来する不満が、やがて毛沢東「探究」ブームの導火線となったようである。

たとえば、北京大学の学生が、1983年10月に北京大学哲学系が編纂した教材、『毛沢東哲学思想教学研究参攷資料（四）』を開いたとしよう、そこには、1957年2月27日の内部矛盾演説の講話原稿が載っており、次の一節が目にとまったと考えてみよう。

「思想の問題、人民内部の問題は、乱暴な方法を使っては解決できない。乱暴な方法を用いて、思想の問題を解決したり、精神世界の問題を解決したり、人民内部の問題を解決するというこういった考え方は間違っている⁽⁸⁾」。

毛沢東のこの言葉は、ポスト文革世代の学生にとっては、軍隊の出動で鎮圧された六四事件を対照的に思い起こさせる一節であろうし、新鮮な響きに聞こえたであろう。

六四事件ではデモ学生側を支援しその後逮捕投獄された経験を有するベテラン作家の王若望は、当時の毛沢東ブームの背景に、中国社会に弥漫した民衆の不満の存在を指摘している。「民衆の現実社会とくに汚職と腐敗に対する不満である。〔中略〕毛沢東時代と比べて、昔は今よりよかったという感覚を与えている⁽⁹⁾」。

ともかく、学生たちは毛沢東を通して中国革命史を追体験しているといえる。早くも1989年以来、北京大学では水面下で静かに「毛沢東熱」が起こっていた。

いわば「文革」を知らない子供たちである大学生は、毛沢東に対して直接的な印象をもって

いるわけではない。まして懐旧の対象でもない。にもかかわらず、あるいは、それゆえに、現実の矛盾に抗うように理想を求め、「巨人」を探していた⁽¹⁰⁾。

大学生が夢中になった毛沢東の「探究」と毛沢東の「発見」とは、現実の矛盾と軋轢のなかで、理想を、あるいは、現実を対象化するなんらかの準拠枠を求める試みであるといえよう。

中央顧問委員会の鄧力群は、大学生の毛沢東ブームを好意的に評価し、「青年たちは、現在存在する腐敗、権力によって私利をむさぼる、賄賂が習慣となっているといった状況に不満をもっているが、改革することもできずにいる。そこで過去に気持ち寄せて、50年代を懐かしがっている。今日彼らは、50年代に『三反』『五反』をやったように、きっぱりと力強くさまざま腐敗を一掃することを願っているのだ」と述べている⁽¹¹⁾。

しかしながら、彼らの目に映る毛沢東が、かならずしも現体制の欠点を映す鏡としてのみ使われるわけではない。保守派の筆頭、鄧力群の称賛を受けるにはそれなりの理由がある。

北京大学の大学院生で毛ブームの隆盛に寄与した論説「毛沢東を発見しよう」の執筆者である辛鳴が毛沢東の次の詩句を引用したことがあった⁽¹²⁾。

まず毛沢東ブームについて、「今日歡呼孫大聖、只緣妖霧又重来」（今日、人びとが孫悟空を歡呼するのは、ただ妖霧がまたたちこめてきたからである）。

そして東欧の政治変動について、「梅花歡喜漫天雪、凍死蒼蠅未足奇」（梅花は空いちめんの雪を喜んで咲く。凍死したハエがいたとしてもそれがなんであろう）。

前者は「七律 郭沫若同志に和す」（1961年11月17日）の一句である。「孫大聖」とは毛沢東が生前しばしば自らをなぞらえたように、毛沢東その人を指している。「妖霧」とは社会主義を転覆させる西側資本主義勢力を指す⁽¹³⁾。

後者は毛沢東69歳の誕生日の詩で「冬雲」（1962年12月26日）である。原詩ではシベリア（ソ連共産党指導部）から吹いて来る寒波に負けずに「梅花」（中国人民）が咲くという意味

で、「凍死したハエ」はソ連を指している⁽¹⁴⁾。六四事件当時、食糧不足に苦しむ旧ソ連に比べ、経済発展の著しい中国に自信が生まれてきたという状況があった。

鄧力群はこれを次のように解釈する。現在はたしかに「妖霧重来」である。つまり、「国際的規模での修正主義の空前の氾濫と国内のブルジョワ思潮の空前の氾濫という事実」こそ、毛沢東ブームが生まれてくる背景にほかならず、「ブルジョワ自由化によって、毛沢東同志とその思想が否定され、醜悪化され、落とされられた。抵抗力のない青年たちは誤った事実を受け入れていたが、毛沢東同志の本当の姿、歴史上の地位と作用、彼の理論を『探求』し、『発見』する過程が必要になった。それは、青年たちが、『尋找毛沢東』（毛沢東を探せ）、『發現毛沢東』（毛沢東を発見しよう）といった文を書くことからわかる」。

彼の意図を敷衍すればこういう主張になる。民主化自由化を求めた大学生は1989年以後大いに反省し、社会主義があつてこそ中国を建設し発展させられるのだと認識するようになった。毛沢東を探究することは、社会主義を選択し探究することを意味しており、それは「中国共産党がなければ新中国もなかった」という真理を認めることである、と。

B. ブームの中の毛沢東

(1) 神としての毛沢東

毛沢東ブームは大学生のみの現象ではなく、広い社会現象でもあった。

最初は、民間での毛沢東のプロマイド（肖像）人気からはじまったようだ。このプロマイドは「毛沢東同志生誕百周年記念 1893-1993」と書かれたプラスチック入りで、「大」は2元、「小」は1円で売られている。1989年後半から各地で需要がのび、1989年に37万枚、1990年に229万5千枚、1991年には500万枚が印刷されたという。1992年の春節前後だけで、342万枚の毛沢東の肖像が市場に出たといわれている⁽¹⁵⁾。

毛沢東のプロマイド人気は、むしろ都市的な現象のように思われる。このプロマイドにはご利益があるということで、お守り札として人気

を呼んだようだ。ご利益のほどは、都市伝説特有の曖昧さと神秘性に満ちている。

たとえば、「毛主席は神だ。人ではない」という北京の運転手の話として、紹介された伝説の一つはこうである。

南方のある公路上で長距離バスが出発しようとしていた。最後の客は手に毛主席の磁器の像をもっているだけで、ほかに荷物はなかったが、バスは満員で像の置き場がなく、手に抱えているしかなかった。やがて事故がおこった。山道のカーブで車が転倒し、運転手と乗客の全員が、死ぬか負傷するかした。だがこの最後の乗客だけが無事で、かすりきずさえなかった。

以来、交通安全のお守りとしてみなが車に毛主席の写真をかけるようになった。もともと1991年末ころ広東省の広州や深圳あたりの運転手をはじめ、上海経由で北上し、北京のタクシーやバスの運転手も競って自分の車にかけるようになったと伝えられている。また、タクシーの強盗除けにも効き目があるともいわれる。

伝説は拡大し、毛の肖像は、家内安全と商売繁盛のお守りにもなる。昔、台所に灶王爺を、家に財神爺を貼り、門に門神を貼ったように、とくに南部では、家に毛主席の肖像をかけているそうだ。居間にかけ、客間にかけ、台所にもかけるという⁽¹⁶⁾。

見渡す限り晴れた1989年5月下旬のある日、湖南省長沙の何人かの青年教師が卵の殻にペンキをつめて、天安門城楼の毛沢東の肖像を汚そうとすると、またたくまに暗雲が垂れ込め、雨が降りだした……。というあまり正確ではない逸話も、毛沢東が神である証拠として人々の口にのぼる⁽¹⁷⁾。

毛沢東崇拜は、祖先崇拜から民間宗教の鬼神崇拜へ変容したともみられている⁽¹⁸⁾。近い将来、毛沢東がかつての項羽や関羽になる前兆なのであろうか。

(2) 商品化される毛沢東

1991年暮れは、毛沢東ブームのあやかり商品が目白押しだった。江西美術出版社は91年末に、毛の各時代の写真と詩を用いた1992年度のカレンダーを出版した。値段は20元とかなり高額だったがよく売れたという。町の露店でも、文革

中、0.1～0.2元の毛沢東バッジも、一個3～4円で売られている⁽¹⁹⁾。

きわめつけは、「紅太陽」現象としてジャーナリズムをもさわがせた『紅太陽』であろう。これは毛沢東の生誕98周年にあたり、中国唱片総公司上海会社が1991年12月に売りだした『紅太陽 毛沢東頌歌新節奏聯唱』というカセットテープである。范琳琳ら10人の人気歌手が、「太陽最紅、毛主席最親」「紅太陽照辺疆」「毛主席的話兒記在我們心坎裏」「毛主席的光輝」「革命人永遠年青」など6、70年代の30曲の毛沢東賛歌を歌う。「敬愛する毛主席、あなたは私たちの心の中の赤い太陽です」（「敬祝毛主席万寿無疆」）など、現代歌謡曲風にアレンジされているが、いずれも30歳以上の耳には懐かしい歌である。

最初の7万巻は1週間で完売の売れ行きで、翌92年の春節までに各地で120万巻を売り、流行歌カセットの最高記録となったという。

つづいて、広東の『中国歌潮毛沢東』、海南の『我們心中的紅太陽』、珠海の『紅太陽毛沢東頌歌』が、また『毛主席的光輝』『懷念你、毛沢東』『心中的紅太陽』『毛沢東詩詞演唱集』『大救星』などが柳の下の泥鰌をねらい成功したようだ⁽²⁰⁾。

マスメディアに乗った「紅太陽」は中国あまねく流行し、各地の歌庁、演唱會でも、もてはやされることになった。

(3) 「人間」毛沢東

1981年5月に「毛沢東同志は誤りを犯しはしたが、これは偉大な革命家の犯した誤りであり、偉大なマルクス主義者の犯した誤りだ」と鄧小平が発言し、6月27日より開催された第11期6中全会で「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」が採択されて以来、文革の否定とともに中国の非毛沢東化、すなわち個人崇拜の否定と毛沢東の非神格化が進められ、1987年には北京師範大学の、1988年には北京大学の毛沢東像が撤去されるにいたった⁽²¹⁾。

奇妙なことだが、1991年秋に、毛沢東の人間の側面を強調する見解が保守派の中からあらわれた。保守派を代表する鄧力群は、改革開放政策のもとで生まれたブルジョア自由化の影響

で、毛沢東を冷酷無情な「君主」「帝王」として描こうとする試みがなされているという認識のもとに、毛沢東は「神ではないし、けっして冷酷無情な『悪魔』でもない。血の通った、人間味に富んだ、たいへん思いやりのある普通の人」であったと強調する。

彼は、大学生の毛沢東の「探求」と「発見」を触発する契機になったのは、「古い世代の革命家の回憶録と、毛沢東の身の職員の彼の生活や経歴を回想した小冊子⁽²²⁾」であり、これらが毛沢東像の醜悪化と歪曲から救済しているとして、たとえば、『走下神壇的毛沢東』など権延赤がまとめた書物を称賛している⁽²³⁾。

おりからの毛沢東ブームで、各出版社は商魂たくましく、伝記、回想録、歴史書が多数刊行され、また、身の職員、秘書、衛士、医者、恩師へのインタビューに基づいて書いたルポルタージュが各地の新聞に連載され、人気を集めた。内容としてまことにおもしろく、毛沢東の親しみ深い日常の姿が紹介され、厳格な上司の家庭人としての暖かさを覗き見るような感触があり、その点まさに鄧力群のこのような効果がある。

とくに四川人民出版社の「跨世紀叢書」の一つである『尋找毛沢東』は3万部売れ、また中共中央文献研究室主任の逢先知が著した『毛沢東和他の秘書田家英』（中央文献出版社、1989年）は6回の再版を経て20余万部を発売し、1990年と1991年のベストセラーとなった。新聞出版署の統計では、1988年以後出版された毛沢東関係の書籍は50種あまり、発行数は100万冊に達した⁽²⁴⁾。出版界の動きは映画、テレビにも影響を与えた⁽²⁵⁾。

出版物の中には、事実と違うもの、荒唐無稽なものがあるようだが、いずれも毛沢東の人的側面を印象づけ、読者の関心をおおいにかきたて、人々は「偉大な人物の日常生活を知り、偉人もやはり人間だったという一体感」を味わうことができた⁽²⁶⁾。

Ⅲ. 党内闘争と毛沢東ブーム

A. 仕掛けられた毛沢東ブーム

六四事件後の内政外交両面での困難な局面にあって、中共当局は死後15年の毛沢東を担ぎ出した。中共建党70周年にあたり、中共は、『毛沢東選集』第2版の発行、毛沢東関係の書籍、長老たちの「回憶録」を大量に出版し、更には「革命事業」を宣伝する映画を制作した。そもそも毛沢東ブームなるもの自体が保守派の工作にもとづくものではないか、とも観察されている。

「[毛沢東ブームは]上級の誰かが提唱しているという背景がある。あきらかに誰かが故意にしかけたものである。巨額の投資自体が『政府の行為』にほかならない」と当時の毛沢東ブームは仕掛けられたものであることを王若望は喝破していた⁽²⁷⁾。

B. 保守派の危機意識

鄧力群は、大学生の毛沢東ブームを鼓舞する動機を次のように捉えている。毛沢東ブームは一種、健康で、進歩的で、希望をはぐくむ現象である。それは凝集の要因、求心の要因、団結の要因、安定の要因である、と⁽²⁸⁾。

保守派の目的は、分裂の防止、「和平演変」（西側の平和的手段による社会主義体制の転覆）の防止であり、ひいては自由化を加速させる改革開放政策への攻撃である。「30年前にダレスは、社会主義の和平演変の希望を、第3代、第4代の青年に託し、社会主義国の青年がやがてはアメリカのやり方にならって問題を考えるようになるだろうと予言した。だが、『毛沢東ブーム』は、その予言に対する有力な回答ではないだろうか」と鄧力群は述べている⁽²⁹⁾。

ソ連の解体に対し「国際的規模での修正主義の空前の氾濫と国内のブルジョワ思潮の空前の氾濫」（鄧力群）に危機意識をつよめた保守派は、91年秋より社会主義の堅持を強調しつつ改革開放政策への批判を展開した。中央宣伝部に王忍之と賀敬之が、人民日報社に高狄がおり、保守派は中央の宣伝媒体に影響力をふるうことができた。

毛沢東との関連では、次のような動向が注目される。1991年8月28日の『新聞出版報』に鄧力群の講話の要約が、10月28日の『中流』雑誌にインタビュー記事が掲載され、毛ブームを肯定する意見が発表された。

また鄧力群は、12月7日の北京大学生の座談会で、毛沢東路線を敬うことが中国問題の唯一の解決であり、毛沢東思想を「反和平演變、反浸透、反転覆」の長期闘争の基礎にしようと語った。10月24日の『人民日報』には鄧力群の「正確認識社会主義的矛盾、掌握处理矛盾的主动权」が掲載され、「姓社還是姓資」（社会主義をなのるか、資本主義をなのるか）という改革派との論争点を毛思想の学習と結びつけた。

C. 改革派の反撃

1992年1月の鄧小平によるいわゆる「南巡講話」が、改革派による反撃であった。

鄧小平は、資本主義の先進的管理方法で社会主義の改革の問題を解決すると主張し、「左」傾主義の台頭に警鐘を鳴らした⁽³⁰⁾。

1992年半ば、北京では次のような俗謡が流行した。「白猫でも黒猫でも、ネズミを捕まえるのはいい猫だ。老いた猫は、白猫でも黒猫でもなく、ネズミを捕まえない赤猫だ。」

「老猫（ラオ・マオ）」は同音の「老毛（ラオ・マオ）」を指しており、毛沢東礼賛に水をさすという寓意がある。香港『争鳴』誌の論評によれば、これは、中央の「反毛派」が鄧力群らがおおる毛ブームを攻撃すべく意図的な「反毛」宣伝をはじめた一環であると観察されている⁽³¹⁾。

歯車は改革開放の進展へと回り始めた。早くも、2月10日の『解放日報』は商闕の「也談『紅太陽』現象」を掲載し、公然と毛沢東ブームを批判するにいたった。(1)あの時代はすばらしかったか。民衆はほんとうにのぞんでいるのか。(2)前の時代の古いものを持ちだすのは、どうしようもない現実に対する自嘲にすぎない。(3)「領袖」を神にしたり、崇拜してはならない、と⁽³²⁾。

毛ブームに対する攻撃として、中共機密檔案のうち毛沢東の私生活に関する記載と、中共中

央文献編輯委員会および中共中央党史研究所が提供した「醜聞」が外部に広められた。

中共中央文献編輯委員会は、1981年1月、10月、1983年5月、1986年7月に、党中央に対する報告で、次の3つの問題を示した。それは、従来不可触なものであった「聖域」が操作可能になった瞬間であった。

(1) 遵義会議で毛沢東の指導的地位が確立したのは事実無根拠であることを究明する。

(2) 毛沢東が建国後自ら政治運動を策動し、党、国家、人民、中華民族に破壊と損失をもたらした。これを如何に評価するか。

(3) 毛沢東個人の作風と私生活は、30年代から延安および50年代、60年代、70年代に、党内で批判された。これを如何に書くか。

そして、中共中央党史研究領導組、文献編輯委員会はある報告で、党史と党の主要指導者の経歴を整理、編集するさい、婚姻や家庭生活の部分は回避できないと指摘した。

これらに対する党中央の指示では、毛の私生活上の醜聞はタブーとし、党史工作者に筆をおかせたようだ。しかしこういった材料が政治的目的から故意に流出しているということである。

詳細は省略するが、たとえば毛の側近の女性の29人が辞職し、11人が心身に傷を負っている。建国後、正常でない婚姻が少なくとも9回あった。そして、53年3月、56年10月、59年8月、62年8月、65年9月に毛沢東は幹部たちから私生活を批判されているという⁽³³⁾。

内幕暴露は、改革派にとっても両刃の剣である。したがって、そういった動きは、党と毛沢東の栄光を守り、少なからぬ老幹部の連座をふせぐべく制限されてゆくことになる。

事実、保守派と改革派の党内闘争が峠をこえ、毛ブームが空回りをはじめた1992年4月の「關於記念毛沢東同志誕辰一百周年圖書出版工作的通知」では、毛沢東関係の書物の出版に關係部門の審査と批准が必要だと規定された⁽³⁴⁾。1992年末から1993年春季にかけて出版された、『中国下放青年の夢』『兵營挽歌』『中国極左の災い』『極左防止備忘録』『林彪の謎』『文化大革命の謎』『素顔の周恩来』『文化大革命の英雄

たち・波瀾の人生』などが、「暗黒面だけを強調している」「政治的安定に不利」「指導者のイメージを損なう」という理由で発禁処分になり、また毛沢東関係の書物も党の正統的評価からの逸脱と内幕の暴露を禁止する規定が設けられ、発禁本の増加が予想されている⁽³⁵⁾。

むすびにかえて

よく知られているように、華国鋒政権は「毛沢東」を政治的シンボルとして利用した。早くも党主席就任の翌日の中央政治局に、毛沢東の遺体の保存と毛主席紀念堂の建設を決定し、また『毛沢東選集』第5巻の出版、後の各巻の出版、『毛沢東全集』の出版準備が計画された。

1992年の毛沢東ブームに関して、ふり返ってみれば、政治的含意に満ち満ちたシンボル操作の現われであったという側面はみのがせない。

しかしまた、書籍やカセットテープにみられるように、毛沢東というシンボルが商品化され、人々の消費衝動を刺激しているという面も重要であろう。それは毛沢東に対する畏敬、「三面紅旗」の時代への懐古的情緒、皇帝崇拝の伝統とも異なる。毛沢東は、もはや数十メートルのコンクリート製の「偉大な領袖」像として仰ぎみる対象ではなくなり、思いの場所にぶらさげられるわずか十数センチのプロマイドの中に可愛らしく封じ込められてしまった。

「毛沢東」ブームとは保守派と改革派の間で操作された政治的ゲームであったわけだが、さらにその背景に存在したのは現代中国に特徴的な「無頓着とおぶざけ」というポストモダンな感覚であるとする意見がある。

『紅太陽』の歌手たちは、のんき無頓着にうたっており、激情もなければ、憂鬱もなく、憤怒もなければ、悲傷もなく、痛苦もなければ、歓喜もなく、回顧も展望もなく、風刺も皮肉もない。すべては平板で空疎である。〔中略〕以前の歌い方は、イデオロギーの全体構造を不断に編みあげ複製する過程であったが、今日のそれは、イデオロギー全体の網の目を不断に覆しうち砕く過程である⁽³⁶⁾。かつての全体構造として意味のあった政治的イデオロギーが不断に

断片化され、記号化されてしまい、神聖なものは世俗的なものに、莊嚴さはおどけたものに、崇高さはありふれたものに、莊重さはうわべだけのものに転換され、気ままに組みあわせてもてあそばれているのだという。多様な「伝統」(プリモダン)の皮袋に「おぶざけ」(ポストモダン)の酒が満たされている。

1993年6月、毛主席紀念堂管理局は、毛主席紀念堂名義で生誕百周年の記念品製作を名目にした募金がしきりに行われているが、それは紀念堂とは無縁の詐欺行為である旨を声明した⁽³⁷⁾。毛沢東は政治の世界の路線闘争の道具として機能するほかに、民衆の「おぶざけ」とそして商魂の対象にもなりうる存在になったといえる。

蔣介石の葬儀が蔣王朝の一族を中心に、つまり家族を中心にして行われたのに対し、毛沢東の葬儀は完全に国家と党の手によって挙行された。

毛沢東の遺体はいまだ国家と党の厳しい管理の対象でありつづけており、真に民衆の手にわたっているわけではない。毛沢東のプロマイドがお守りになることはありえても、将来、各地に「毛公廟」ができたり、道廟の壇上の一角に「領袖」神が登場するかと問うならば、当面は否と答えざるをえない。

1983年12月23日には、故毛沢東に対する批判攻撃を希釈する意図からであろうか、毛主席紀念堂に「堂」のほかに、4つの紀念室を設け、毛沢東、周恩来、劉少奇、朱徳を記念することになった。クイズ大会では毛沢東・鄧小平以外の指導者に関する問題として(111)(112)(113)では劉少奇、周恩来、朱徳について「出題」されていた。怪談の恐怖を楽しむ際の供養のようなもので、毛の威霊を慰めるための「設問」であるとも思われる。

「紅太陽」現象を危険な徴候とみていた上海社会科学院哲学研究所の黄万盛は、香港『明報』の記者に対し、大要次のように答えた。

毛は新しいトーテムであり、世俗的宗教の機能をはたしている。問題は、現代の中国人が、崇高で神聖なものを世俗的で滑稽なものに代えるという形而上学の破壊の危機にあることであ

る。文革中の革命歌の旋律は、現代のロックに変わってしまう。現在は精神の中の不合理なものを捨て去るのではなく、精神をまるごと投げ捨てている。この時代は哲学者、神学者、芸術家を必要としないばかりか、さらには政治家、政治的権威をも必要となくなっている⁽³⁸⁾。

「毛沢東クイズ」の出題意図は、現体制に対する批判や風刺でもなければ、毛沢東崇拜の強化でもない。問題の解答を考える（調べる）ことは、中国共産党の歴史そのものを学習することにほかならない。「毛沢東クイズ」の中の毛沢東は、「断片化」された客観的知識として取り扱われる。「歴史決議」に見るように、毛沢東の生涯・思想・著作に関する評価は、党によって厳重に管理されている。管理された「客観的知識」として「出題」されることによって、毛沢東の偉大さは、中国共産党の「歴史」の中に散りばめられる。

毛沢東のカリスマ性は、党史の「物語」の中に吸収され、党史のストーリーの中に日常化されている。「毛沢東思想」と対置して「鄧小平理論」を党規約に盛り込むことによって、「毛沢東」は封印されてしまった。逆に党の「歴史」自体が神聖視され、党の「物語」こそが新たな権威の源泉として機能している。1993年という時点において、この「物語」が収斂するのは「鄧小平」であり、「物語」の語り手は「江沢民」であった。

[註]

- (1) 『『毛沢東選集』第1巻から第4巻の第2版の学習に関する通知』を發出（1991年7月4日）、陳文斌他編『中国共産党執政五十年（1949—1999）』（中共党史出版社、1999年10月）729頁。中共中央党史研究室編『中国共産党新時期歴史大事記（1978.12—1998.10）』（中共党史出版社、1998年）334頁。
- (2) クイズ（「知識競賽」）に関する資料は北京師範大学の蘇真教授より提供を受けた。この場を借りて謝意を表明したい。
- (3) (4) 張曉娟「“尋找毛沢東”現象引發的思考」『青年論叢』1991-4（『復印報刊資料A2 毛沢東思想研究』1992-1、10頁）。

- (5) 葛蕾「対大陸『毛沢東熱』之剖析」『中共研究』第26巻第5期、1992年5月、50頁。
- (6) たとえば、「涙飛頓作傾盆雨、借問瘟君欲何往」は当時の状況を伝えるものとしてよく知られている。武田泰淳・竹内実『毛沢東・その詩と人生』（文芸春秋社、1965年）310頁、318頁を参照。
- (7) 大崎雄二「'92北京・『毛沢東グッズ』大流行の怪」『Be-Common』1992年6月、98頁。大崎氏（現法政大学）からは当時の状況について多くの教示を受けた。
- (8) 「關於正確處理人民内部矛盾的問題」。邦訳は、マックファーカー他編、徳田教之他訳『毛沢東の秘められた講話』上（岩波書店、1992年）61頁。
- (9) 張偉国「『毛熱』紛争面面觀」『明報』1992年5月号、19頁。
- (10) 張偉国、同上、21頁。
- (11) 本刊記者「關於“毛沢東熱”—鄧力群同志答本刊記者」『中流』1991-12（『復印報刊資料A2 毛沢東思想研究』1992-1、9頁。同文は、『鄧力群文集』第3巻（当代中国出版社、1998年）に所収）。
- (12) 1990年1月の『大学生』雑誌が主宰した座談会である。本刊記者「關於“毛沢東熱”—鄧力群同志答本刊記者」同上、6頁。
- (13) 武田泰淳・竹内実、前掲、348頁、350頁。
- (14) 武田泰淳・竹内実、同上、359頁。
- (15) 葛蕾「対大陸『毛沢東熱』之剖析」『中共研究』第26巻第5期、1992年5月、47～48頁。
- (16) 李光「毛主席保祐一和北京出租車司機的對話」『明報月刊』1992年5月号、23～24頁。
- (17) 張偉国「『毛熱』紛争面面觀」前掲、21頁。
- (18) たとえば、周群・姚欣榮は、新式毛沢東崇拜を伝統的な「鬼神崇拜」のひとつとして位置づける。周群・姚欣榮「新旧毛沢東崇拜」（原載、『二十一世紀』総第20期、香港中文大学中国文化研究所、1993年12月）劉青峰編『文化大革命：史実與研究』（香港中文大学、1996年）所収。
- (19) 葛蕾「対大陸『毛沢東熱』之剖析」前掲、

- 47頁。
- (20) 葛蕾、同上、49頁。
- (21) 矢吹晋『ペキノロジー 世紀末中国事情』（蒼蒼社、1991年）90頁。
- (22) 「談談『毛沢東熱』」『文匯報』1992年12月16日、伍森「鄧力群為毛沢東搖幡招魂」『争鳴』1992年1月号、38頁による。
- (23) 本刊記者「關於“毛沢東熱”——鄧力群同志答本刊記者」前掲、7頁。
- (24) 葛蕾「対大陸『毛沢東熱』之剖析」前掲、48頁。
- (25) 葛蕾、同上、49頁。
- (26) 鄒一「“毛沢東熱”中的經濟酵素」『調研世界』1992-1（『復印報刊資料A 2 毛沢東思想研究』1992-5、37頁）。
- (27) 張偉国「『毛熱』紛争面面觀」前掲、19頁。
- (28) (29) 本刊記者「關於“毛沢東熱”——鄧力群同志答本刊記者」前掲、9頁。
- (30) 羅冰「鄧陳決裂内幕」『争鳴』1992年3月号。羅冰「兩巨頭上海交鋒記」『争鳴』1992年3月号。羅冰・黎自京「鄧陳決裂的五個跡象」『争鳴』1992年3月号。岳山「鄧力群李瑞環的連場角鬪」『争鳴』1992年3月号。
- (31) 羅冰・黎自京「反毛派批毛私生活」『争鳴』1992年7月号、10頁。
- (32) 葛蕾「対大陸『毛沢東熱』之剖析」前掲、51頁。
- (33) 羅冰・黎自京「反毛派批毛私生活」前掲、10～13頁。
- (34) 「關於紀念毛沢東誕辰一百周年圖書出版工作的通知」『新聞出版報』1992年4月29日（「毛沢東関連著作の規定」『中国図書』第4巻7月号、1992年7月）。
- (35) 「文革や指導者の書籍 発禁処分相次ぐ」『読売新聞』1993年5月21日。
- (36) 甘陽「『毛沢東熱』与中国の後現代」『明報月刊』1992年11月号、65～66頁。
- (37) 「毛主席紀念堂管理局声明」『人民日報』1993年7月2日。
- (38) 張偉国「『毛熱』紛争面面觀」前掲、20頁。

【資料】 毛沢東同志生誕百周年に関するクイズ

* 解答は最後に亀甲括弧〔 〕で記入した。

(1) 毛沢東個人の履歴に関するもの：32題

- (1) 毛沢東の父母は何という名前か。〔毛順生、文七妹〕
- (2) 毛沢東の字は何か。〔咏芝（または、潤之、潤芝）〕
- (3) 毛沢東は自らにどのような名前を付けたことがあるか。2つ挙げよ。〔李徳勝、毛允滋〕
- (4) 1910年秋、毛沢東は外地で勉強するため韶山を離れた。その直前に彼は日本の西郷隆盛の詩を書き換えて父親に贈った。「孤兒立志出郷関、学不成名誓不還。埋骨何須桑梓地、人生無处不青山！」この年毛沢東はどの学校に学んだか。〔湘郷県立東山高等小学堂〕
- (5) 毛沢東が初めて湖南省の省都である長沙に行ったのは何年か。〔1911年〕
- (6) 毛沢東が湖南で新軍に参加したのは何年か。どのぐらい兵士でいたか。〔1911年。半年間〕
- (7) 1914年から1918年まで毛沢東は長沙のどの学校で学んだか。〔湖南省立第一師範学校〕
- (8) 毛沢東が長沙で学習していたさい、志を同じくする友と交わるため、「友人を募る広告」を出したことがある。毛沢東はどのような署名でもってこの「友人を募る広告」を発表したか。〔二十八画生〕
- (10) 1918年、毛沢東と蔡和森らは長沙でどのような組織を結成したか。〔新民学会〕
- (11) 毛沢東が初めて北京に行ったのは何年か。〔1918年〕
- (12) 1919年から1920年まで、毛沢東は長沙修業学校で教師をしていたが、毛沢東が教えたのは何の授業か。〔歴史課〕
- (13) 1921年に中国共産党第1回全国代表大会に参加した2名の湖南省代表は誰か。〔何叔衡、毛沢東〕
- (14) 1924年1月、中国国民党第1回代表大会が広州で開催された。毛沢東はこの大会に参加したか。〔参加した〕
- (25) 1927年9月、毛沢東が指導した秋収蜂起の部隊が江西省永新県三湾村に達した際、有名な「三湾村改編」を行ない、党の支部を部隊のどのレベルの組織に置くことに決定したか。〔中隊レベル〕
- (26) 1928年4月、朱徳が率いる南昌蜂起軍の一部が井崗山に行き、毛沢東が指導する部隊と合流し、労農紅軍第四軍となった。毛沢東は何の職務を担当したか。〔軍事委員会書記兼党代表〕
- (27) 井崗山時代、毛沢東は軍が大衆工作に従事した経

- 験を総括して、何大規律・何項注意を定めたか。またそれは後に何項が増加されて、3大規律・8項注意へと発展したのか。〔3大規律、6項注意。2項を増加した〕
- (28) 1929年12月、毛沢東が古田会議のために書いた有名な決議とは何か。〔「古田会議決議」、「党内の誤った思想を正すことについて」〕
- (29) 土地革命戦争の時期に、毛沢東が自ら指導した反「包圍掃蕩」作戦は何回か。〔3回〕
- (30) 1931年11月、第1次全国ソヴィエト代表大会が瑞金で開催され、中華ソヴィエト共和国臨時中央政府の成立が宣言された。毛沢東は臨時中央政府において何の職務を担当したか。〔中華ソヴィエト共和国中央執行委員会主席、人民委員会主席〕
- (31) 1935年1月の遵義会議以後、党中央に3人小組が成立し全軍の軍事行動に責任を負うことになった。この3人とは誰か。〔毛沢東、周恩来、王稼祥〕
- (33) 毛沢東が中共中央政治局主席、兼中央書記処主席に選出されたのは何年か。〔1943年3月20日〕
- (34) 1945年4月、毛沢東が第7回党大会で行なった報告の標題は何か。〔「論聯合政府」〕
- (35) 1945年8月28日、毛沢東、周恩来、王若飛が重慶に赴き国民党当局と交渉したが、この交渉は何日間行なわれたか。また何という協議が成立したか。〔45日間。「双十協定」(「政府与中共代表会談紀要」)〕
- (38) 1948年8月6日、毛沢東がある談話で「すべての反動派は張り子の虎である」という有名な論点を提起した。毛沢東がこの論点を提起したのは誰と会談したときか。〔アンナ・ルイス・ストロング〕
- (41) 毛沢東の「四面出撃するな」の講話はどの会議で発表したものか。〔中共7期3中全会〕
- (49) 毛沢東が中華人民共和国主席に選出されたのは何年か。〔1954年〕
- (51) 1956年9月、8期1中全会で選出された6人の中央政治局常務委員は誰か。〔毛沢東、劉少奇、周恩来、朱德、陳雲、鄧小平〕
- (52) 1957年2月、毛沢東は一千八百人余りが参加した最高國務院会議において何の重要講話を発表したか。〔「關於正確處理人民内部矛盾的問題」〕
- (114) 毛沢東が「雷鋒同志に学ぼう」の言葉を書いたのは何年か。〔1963年〕
- (115) 毛沢東は2度ソ連を訪問したが、それぞれ何年か。〔①1949年～1950年、②1957年〕
- (118) 1947年、毛沢東が劉胡蘭烈士のために書いた題詞は何か。〔「生的偉大、死的光榮」〕
- (129) 1949年3月13日に、毛沢東が『党委員会の工作方法』で提起した方法は全部で何項あるか。〔12項〕
- (2) 毛沢東の著作に関するもの：14問
- (9) 1917年4月、毛沢東は『新青年』第3巻第2号に有名な論文を発表した。この論文の標題は何か。〔「体育之研究」〕
- (15) 『毛沢東選集』第1巻の最初の文章は何か。また何年に書かれたものか。〔「中国社会各階級分析」、1925年〕
- (16) 1927年初、毛沢東は湖南の5つの県で32日間の調査を行い、最後に報告を書いたが、この報告の標題は何か。〔「湖南農民運動考察報告」〕
- (17) 『毛沢東選集』は全部で4巻あるが、それぞれどの時期の著作であるか。〔第1巻、第1次・第2次国内革命戦争時期、1925年～1937年。第2巻、抗日戦争時期(上)、1937年～1941年。第3巻、抗日戦争時期(下)、1941年～1945年。第4巻、第3次国内革命戦争時期、1945年～1949年〕
- (19) 1991年6月に出版された『毛沢東選集』第2版ではある文章が追加されている。この文章の標題は何か。また何年に書いたものか。〔「反対本本主義」、1930年5月〕
- (20) 新版の『毛沢東選集』は旧版に対して主にどのような改訂を行なったか。〔「反対本本主義」の一篇を増加した。主に校訂と注釈について改訂し、注釈のうち誤った史実や正しくない表現を修正した。また新たな注釈を増補し、若干の注釈を削除した。〕
- (21) 毛沢東の「実践論」、「矛盾論」は毛沢東選集の第何巻にあるか。〔第1巻〕
- (22) 毛沢東の「為人民服務」という文章は誰を記念して書いたものか。〔張思德〕
- (23) 毛沢東の「愚公移山」という文章はどの会議で演説したものか。〔中国共産党第7回全国代表大会〕
- (24) 『毛沢東選集』第4巻の最後の5篇の文章は、毛沢東が新華社に書いた、米国國務省の白書とアチソンの書簡に関する論評である。そのうちの3篇を挙げよ。〔「丢掉幻想,準備鬥爭」「別了,司徒雷登」「為什麼要討論白皮書」「“友誼”,還是侵略?」「唯心歷史觀的破産」〕
- (39) 1948年12月30日、毛沢東は新華社に新年獻詞を書いたが、その標題は何か。〔「將革命進行到底——一九四九年新年獻詞」〕
- (40) 1949年6月30日、毛沢東は中国共産党成立28周年を記念し何の文章を書いたか。〔「論人民民主專制」〕
- (50) 毛沢東が「十大關係論」を提起したのは何年か。そのなかの三大關係を挙げよ。〔1956年(4月25日)。
①重工業と農業、輕工業の關係。②沿海工業と内地工業の關係。③經濟建設と国防建設の關係。④国家、生産單位と生産者個人の關係。⑤中央と地方の關係。〕

- ⑥漢族と少数民族の関係。⑦党と非党の関係。⑧革命と反革命の関係。⑨是と非の関係。⑩中国と外国の関係。]
- (67) 党の建設思想に関する毛沢東の主要な著作には何があるか。3篇を挙げよ。[「反対自由主義」「改造我們的學習」「反対党八股」(あるいは「中国共産党在民族戦争中的地位」「整頓党的作風」「學習和時局」「關於健全党委制」「党委会的工作方法」)]
- (3) 「毛沢東思想」に関するもの：2問
- (68) 「毛沢東思想」という概念を最初に提起したのは誰か。[張如心]
- (69) 毛沢東思想の真髓は何か。[实事求是、大衆路線、独立自主]
- (4) 毛沢東の詩詞に関するもの：16問
- (87) 現在、毛沢東の詩詞で公開されたものは何首あるか。[50首]
- (88) 1923年、毛沢東が長沙を出るときに詞を書き、その中に「汽笛一声腸已断、從此天涯孤旅」(汽笛一声、断腸の思い。これより天涯孤独の旅)の2句がある。この詞は誰のために書いたものか。[楊開慧(最初の夫人)]
- (89) 1925年、毛沢東が詞を書き、その中に「問蒼茫大地、誰主沈浮?」(蒼茫の大地に問う。歴史の勝敗を主催している者はいったい誰なのか、と)の2句がある。この詞の詞名は何か。[「沁園春・長沙」]
- (90) 1934年夏、毛沢東は「清平樂・会昌」という詞において「東方欲曉、莫道君行早。踏遍青山人未老、風景這辺独好」(東の空が明けようとしている。君達ずいぶん早い出発だなどと言わないでくれ。われわれは各地の山を行軍してきたが、まだ老いこんではない。こちらはまだまだ大勢を挽回でき、見れば見るほど風景は美しく感じられる)と書いた。会昌は何省の県か。[江西省(南部)]
- (91) 1935年2月、毛沢東はある詞において「雄関漫道真如鉄、而今邁歩從頭越」(雄大な地形に設けられたこの関門を、鉄のように堅固だと敵は誇った。しかしいま、われわれは頂上を堂堂と超えてゆくではないか)と書いた。この詞の名は何か。[「憶秦娥・婁山関」]
- (92) 1935年10月、毛沢東は「七律・長征」の詩において「大渡橋横鉄索寒」(大渡河には橋がかかっていたが、これが鎖だけで、急流のうえに、高くかかる鉄の鎖は寒さを感じさせる)と書いた。ここで言っているのは何河の何橋か。それはどの省か。[大渡河の

瀘定橋。四川省にある]

- (93) 1935年10月、毛沢東は「念奴橋・崑崙」の詞において「而今我謂崑崙、不要這高、不要這多雪。安得倚天抽宝劍、把汝裁為三截」(今や私が崑崙にむかっていおう。おまえはそんなに高くなくてもよいし、そんなにたくさんの雪もいらぬ。ああどうにかして、天によりかかりながら長劍をさっとひきぬき、おまえを三段にたち切ってやりたいものだ)と書いた。後の5句はどういう内容か。[「一截遣歐、一截贈美、一截還東国。太平世界、環球同此涼熱」(一段はヨーロッパにやり、一段はアメリカに贈呈し、一段はやはりもとのアジアへかえしてやることにしよう。そうすれば、地球の暑さ寒さは同じものになり、中国で昔から理想の社会として人びとが描いてきた、太平の世界が実現するであろうに)]
- (94) 1945年10月、毛沢東が重慶で何の詞を書いて柳亜子に贈ったか。[「沁園春・雪」]
- (95) 1949年、毛沢東はある七律の詩で「天若有情天亦老、人間正道是滄桑」(天に情があるなら、天も感傷のあまり老いこむだろう。人間の世の中の真理は、不断の変化とういことなのだ)と書いた。これは人民解放軍がどの都市を占領した後に書いたものか。[南京]
- (96) 1949年、毛沢東はある七律の詩で「牢騷太盛防腸断、風物長宜放眼量」(不平があまり過ぎますと、腸が切れるかもしれません。風物というものは、時間をかけ、度量を広くして見ないと美点がわからないのではありますまいか)と書いた。これは誰の詩に和して書いたか。[柳亜子に和す]
- (97) 1957年、毛沢東は「蝶恋花・答李淑一」の詞において「我失驕楊君失柳」(私は誇らかな楊を失い、君は柳を失った)と書いた。「楊」と「柳」はそれぞれ誰を指すか。[楊開慧、柳直荀]
- (98) 1959年6月、毛沢東はある七律の詩で「為有犠牲多壮志、敢叫日月換新天」(革命のために多くの壮士が犠牲となったが、それでもひるまず日月に天を新たにさせた)と書いた。これは毛沢東がどこに着いてから書いたか。[韶山]
- (99) 1959年、毛沢東は胡喬木に送った書簡において「雲横九脈浮黄鶴」(武漢三鎮のうえには雲が横たわり、ふと伝説の黄鶴が飛んでいるように見えた)の一句がややよいと考えているが、これはどの詩の一句か。[「七律・登廬山」]
- (100) 1963年1月、毛沢東は詞を書き、その中の2句は「四海翻騰雲水怒、五洲振蕩風雷激」(四海はわきたち、雲も水も怒っている。五大州は激しくゆさぶられ、暴風と雷鳴が激しい)であった。この詞は誰に和して書いたものか。[郭沫若]

- (101) 1935年10月、毛沢東は六言の詩を書いた。前2句は「山高路遠坑深、大軍縦横馳奔」(山は高く、路は遠く、谷は深いが、大軍は縦横無尽に走り回る)であった。後の2句は何か。〔「誰敢横刀立馬、唯我彭大將軍」(誰が果敢にも刀を横なぎにし馬を後足立ちさせて敵に挑むだろうか。ただわが彭大將軍だけである)〕
- (102) 1936年、毛沢東はある同志に詩を贈った。その中の2句は「昨天文小姐、今日武將軍」(昨日までの女流作家は、今日からは紅軍兵士である)であった。この詩は誰に贈ったものか。〔丁玲〕
- (5) 中国革命史および共産党史に関するもの：34問
- (18) 第2次国内革命戦争時期は何年から何年までか。〔1927年～1937年〕
- (32) 延安整風運動の任務とは何か。〔主観主義に反対し学風を整え、セクト主義に反対し党風を整え、党八股に反対し文風を整える。〕
- (36) 政治協商会議は何年に開催されたか。〔1946年1月10日〕
- (37) 蔣介石が全面内戦を発動したのは何日か。〔1946年6月26日〕
- (42) 建国初期に臨時憲法の役割を果たした憲章とは何か。〔「共同綱領」〕
- (43) 新中国の最初の法律とは何か。何年に公布されたか。〔1949年公布の「婚姻法」〕
- (44) 三反闘争において処刑された二人の高級幹部は誰か。〔劉青山、張子善〕
- (45) 三反運動は何に反対したか。〔汚職、浪費、官僚主義に反対する〕
- (46) 五反運動は何に反対したか。〔贈賄、脱税、国家資材の窃取、手抜きと材料の誤魔化し、国家の経済情報の窃取に反対する〕
- (47) 過渡期の総路線は何年に公布されたか。〔1953年〕
- (48) 最初の中華人民共和国憲法が公布されたのは何年か。〔1954年〕
- (53) 1962年1月11日から2月7日まで中共中央は北京で拡大中央工作会議を開催した。この会議はほかに何会議と呼ばれるか。〔七千人大会〕
- (54) 中国が最初に原子爆弾の実験に成功したのはいつか。〔1964年10月16日〕
- (56) 中共11期3中全会で確定した指導方針とは何か。〔解放思想、開動脳筋、实事求是、団結一致向前看〕
- (57) 1972年2月に、ニクソン大統領が訪中し毛沢東主席と会見し、そして周恩来総理と会談した。会談を終えた中米双方は2月28日に「米中共同声明」を締結し、両国が関係正常化を始めたことを示した。「米中共同声明」はどこで締結されたか。〔上海〕
- (58) 第26回国連総会の議決を経て、中華人民共和国の合法的な議席が回復した。これは何年の何月か。〔1971年10月(25日)〕
- (60) 1978年5月11日、『光明日報』は特約評論員の署名で文章を発表し、これより真理標準問題の大論争が起こった。その文章の標題は何か。〔「実践是檢驗真理的唯一標準」〕
- (61) 11期3中全会はいつ開催されたか。〔1978年12月18日～12月22日〕
- (70) わが国で最も早い経済特区はどの4つか。〔厦門、深圳、珠海、汕頭〕
- (72) 1984年10月、12期3中全会である決定が通過し、計画経済と商品経済を対立させる伝統的な観点を打破し、わが国の社会経済は公有制の基礎の上の、計画を有する、商品経済であることが確認された。この会議で通過したのは何の決定か。〔「關於經濟体制改革の決定」〕
- (73) 「社会主義精神文明建設の指導方針に関する決議」は何年に何の会議で通過したものか。〔1986年9月28日。中共12期6中全会〕
- (75) 「ひとつの中心、ふたつの基本点」という基本路線は第何回会議で系統的に概括されはつきりと述べられたか。〔1987年10月。中共第13回大会〕
- (76) 国家「八五」計画とはどの5年間を指すか。〔1991年～1995年〕
- (77) 中華人民共和国はいつ香港の主権を回復するか。中英は香港問題に関する共同コミュニケに何年に署名したか。〔1997年7月1日。1984年に署名(9月26日「香港問題に関する中英共同声明」)〕
- (78) 中華人民共和国はいつマカオの主権を回復するか。〔1999年12月20日〕
- (110) 中央顧問委員会が存在した時期は何年から何年までか。〔1982年～1992年〕
- (116) 新中国成立後、中央規律検査委員会の最初の主任は誰か。〔朱徳〕
- (123) わが国に教師節が設けられたのは何年か。〔1985年〕
- (124) 「中華人民共和国民法通則」は全部で何章何条か。いつ施行されたか。〔全部で9章、156条。1987年1月1日から施行〕
- (125) 「中華人民共和國専利法(特許法)」のいう発明創造とは何か。〔発明、実用新案および意匠を指す(第2条)(1985年4月1日施行)〕
- (126) 「中華人民共和國著作権法」は全部で何章何条か。いつ施行されたか。〔全部で6章、56条。1991年6月1日から施行〕
- (127) 「全民所有制工業企業の経営轉換メカニズム条例」

が提起した、企業が経営構造を転換する目標とは何か。〔目標は、企業が市場の受容に適応し、自主的に経営し、損益は自分で負担し、自らを発展させ、自らを規制するような商品の生産と経営を行なう単位となり、独立した民事上の権利を持ち、民事上の義務を負担する企業法人となることである。〕

(130) 江沢民が第14回党大会の報告で提起した、14年間の偉大な実践の経験が集中した一点とは何か。〔中国の特色ある社会主義を建設する理論を指導的な党の基本路線とすることを、いささかもたじろがず堅持しなければならない。〕

(131) 中共第14回大会が提起したわが国の経済体制改革の目標とは何か。〔社会主義市場経済体制を樹立し、生産のさらなる解放と発展に役立たせる。〕

(6) 「歴史決議」に関するもの：5問

(55) 「建国以来の党の若干の歴史的問題に関する決議」はどのように「文化大革命」の性質を規定したか。〔「文化大革命」は「すべて指導者が誤って引き起こし、反革命集団に利用されて、党と国家と各民族人民に大きな災難をもたらした内乱である」〕

(62) 「建国以来の党の若干の歴史的問題に関する決議」はいつ何の会議で通過したか。〔1981年6月27日。中共11期6中全会〕

(64) 「歴史決議」は毛沢東の歴史的立場をどのように評価したか。〔毛沢東同志は偉大なマルクス主義者であり、偉大なプロレタリア革命家、戦略家、理論家である。毛沢東同志は10年にわたる「文化大革命」で重大な誤りを犯したとはいえ、その全生涯からみると、中国革命にたいする功績は、過ちをはるかにしのいでいる。毛沢東同志にあっては、功績が第一義的で、誤りは第二義的である。毛沢東同志は、わが党と中国人民解放軍の創設および発展のため、中国各族人民の解放事業の勝利のため、中華人民共和国の創建とわが国の社会主義事業の発展のために、不滅の功績をうち立てた。毛沢東同志は、世界の被抑圧民族の解放と人類の進歩をめざす事業に大きな貢献をした。〕

(65) 「歴史決議」は毛沢東思想をどのように概括したか。〔毛沢東思想は、マルクス・レーニン主義の中国における運用と発展であり、実践によってその正しさが立証された中国革命の正しい理論的原則と経験の総括であり、中国共産党の集団的な英知の結晶である。〕

(66) 「歴史決議」は毛沢東思想の具体的内容を6つの側面に概括したが、それは何か。〔①新民主主義革命について。②社会主義革命と社会主義建設について。

③革命的軍隊の建設と軍事的戦略について。④政策と戦術について。⑤思想・政治工作および文化活動について。⑥党の建設について。〕

(7) 鄧小平に関するもの：10問

(59) 「文化大革命」後、何年の何の会議で鄧小平同志は正式に指導的任務に復帰したか。〔1977年7月16日～7月21日。中共10期3中全会。〕

(63) 党中央が「歴史決議」の起草に着手したさい、鄧小平はこの決議の総体的指導思想は3つあると述べた。最も核心的なものは何か。〔核心：毛沢東の歴史的地位を確立する。毛沢東思想を堅持し発展させる。〕

(71) 1982年に鄧小平は「マルクス主義の普遍的真理をわが国の具体的実際と結びつけ、自らの道を歩み、中国の特色を持つ社会主義を建設すること、これが長期にわたる歴史的経験を総括して得たわれわれの基本的結論である」と述べた。これは鄧小平が第何回党大会で演説したものか。〔第12回党大会（1982年9月）〕

(79) 第14回党大会〔1992年10月〕ではっきりと述べられた中国の特色ある社会主義の建設に関する鄧小平の理論は、いくつの側面を含んでいるか。〔9つの側面。①社会主義の発展の道、②社会主義の発展段階、③社会主義の根本的任務、④社会主義の発展の動力、⑤社会主義建設の外部条件、⑥社会主義建設の政治的保証、⑦社会主義建設の戦略的措置、⑧社会主義の指導勢力と援助勢力、⑨祖国の統一。〕

(80) 1983年10月1日、鄧小平が景山学校に贈った言葉とは何か。〔「教育要面对世界、面对未来、面对现代化」〕

(81) 1989年5月、鄧小平はある談話で「各国は自分の条件にもとづいて革命成功後の社会主義を建設しなければならない。決まったモデルはないし、ありえない」と述べた。これは誰と会見したときの談話か。〔ゴルバチョフ〕

(82) 1978年に鄧小平は「われわれは人民の教師の政治的地位と社会的地位を向上させなければならない。学生が教師を尊重するだけでなく、社会全体が教師を尊重すべきである」と述べた。これは何の会議で話したか。〔全国科学大会（開幕式）〕

(83) 1985年5月19日、鄧小平は「われわれの国家、国力の強弱、経済発展の効果の大小は、ますます労働者の素質、知識分子の数と質によって決定されるようになる」と述べた。これは鄧小平が何の会議で話したことか。〔全国教育工作会议〕

(84) 鄧小平が「社会主義でも市場経済をやっつてよい」と最も早く指摘したのはいつか。〔1979年〕

(109)『鄧小平文選』は全部で何巻出されたか。それぞれいつ頃の著作か。〔3巻。①1938年～1965年。②1975年～1982年。③1982年～1992年。〕

(8) 毛沢東・鄧小平以外の指導者に関するもの：4問

(111)『劉少奇選集』は全部で何巻か。〔上下2巻〕

(112)『周恩来選集』は全部で何巻出たか。〔上下2巻〕

(113)『朱徳選集』は全部で何巻出たか。〔1巻〕

(117) 1949年5月7日、周恩来が中華全国青年第1回代表大会で演説を行なった。この演説の題目は何か。〔「全国青年団結起来、在毛沢東的旗幟下前進」〕

(9) 「中国教育改革と発展綱要」に関するもの：7問

(85) 中共中央、国務院が1993年2月13日に印刷配布した「中国教育改革と発展綱要」はいつくの大部分と何条からなるか。〔6大部分。50条〕

(86) 「中国教育改革と発展綱要」で規定された教育方針とは何か。〔教育は、社会主義的現代化建設に奉仕しなければならず、生産労働と結合し徳・智・体が全面的に発達した建設者と後継者を養成しなければならない。(27条)〕

(119) 「中国教育改革と発展綱要」は、高等教育の発展はどの路を進むべきであると提起しているか。〔内涵発展を主とした路を進むべきである。(9条)〕

(120) 「中国教育改革と発展綱要」が提起した高等教育体制改革の目標は何か。〔政府と高等学校、中央と地方、国家教育委員会と中央の各業務部門間の関係を解決し、さらに政府のマクロ管理、学校が社会に向かい自主的に運営する体制を樹立する。(18条)〕

(121) 「中国教育改革と発展綱要」が提起した学校德育、すなわち思想、政治、品德の教育の根本的任務は何か。〔根本的任務：マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、および中国の特色ある社会主義建設の理論を用いて学生を教育し、正しい政治的方向の確定を首位に置き、理想・道徳・教養・規律のある社会主義の新人を養成する。(28条)〕

(122) 「中国教育改革と発展綱要」が提起した高等学校教員の育成と訓練にはどのような原則に基づくべきか。〔国内に基礎をおき、在職者を主とし、実践を強化し、多様な形式を併用する。(41条)〕

(128) 「中国教育改革と発展綱要」が提起した、外国留学生に対する方針とは何か。〔留学を支援し、帰国を奨励する。出入りは自由とする。(14条)〕

(10) 北京師範大学（と毛沢東）に関するもの：6問

(103) 新中国成立後、傅種孫教授は北京師範大学数学科主任、教務長、副校長を歴任し、ほかにある雑誌の総編集でもあった。それはどういう雑誌か。〔『中国数学雑誌』〕

(104) 毛沢東がわが校のために校名を書いたのは何年か。どの校長の要請に応じて書いたか。〔1950年9月。林礪儒〕

(105) 1958年10月12日、毛沢東がわが校の教職員学生代表の楊之嶺、葉劍媚、胡筆軍を接見した。わが校代表は毛沢東に何の贈物を贈ったか。〔玩具の布人形〕

(106) 毛沢東が初めて陳垣校長を宴席に招待したのはいつか。〔1951年11月1日〕

(107) 1957年6月18日、毛沢東はわが校の何錫麟同志に書簡を書いた。何錫麟は当時わが校で何の職務を担当していたか。〔校党委書記〕

(108) 1951年10月11日、毛沢東がわが校の雷瀚教授に書簡を書き、彼の努力と進歩に祝いの言葉を述べた。雷瀚はわが校の何系の教授か。〔物理系教授〕

(以上)

* 尚、詩詞の邦訳は、一部、武田泰淳・竹内実『毛沢東・その詩と人生』（文芸春秋社、1965年）に拠る。